

新河岸東公園

施設の一部空間を有効に利用し、北区や板橋区の公園やスポーツ施設として地域の皆さまに開放しています。

公園内には、サッカー場、フットサルコート・野球場・テニスコートがあります。

〈問い合わせ先〉北区 地域振興部 スポーツ推進課 スポーツ支援係 ☎03-5390-1135
板橋区 区民文化部 スポーツ振興課 ☎03-3579-2651

見える下水道施設

普段見ることができない地下にある下水道施設を地上部に展示し、下水道の仕組みをわかりやすく説明した施設です。



案内図



下水道の役割や水環境の大切さを、楽しみながら学べる体験型施設です。

- 開館時間/9:30～16:30（入館は16:00まで）
- 入館無料
- 休 館 日/月曜日（月曜日が祝祭日の場合は開館し、その翌日休館）、年末年始 ※夏休み期間は無し
- 所 在 地/江東区有明2-3-5 有明水再生センター5階
- ☎ 03-5564-2458
- ホームページ <https://www.nijinogesuidoukan.jp/>



下水道局との関係をお互に
悪質業者にご注意を！

下水道局では、宅地内排水設備の修理や清掃などを業者に依頼することはありません。



●東京アメッシュ

都内とその周辺地域で降っている雨をレーダーと地上雨量計で観測し、リアルタイムに表示するシステムです。



●下水道アドベンチャー

下水道についてのクイズに正解して、下水道マイスターを目指そう。



●下水道局ホームページ

<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/>



地域で育む水環境

浮間水再生センター



アースくん

浮間水再生センターの処理区域は、新河岸処理区(10,474ha)のうち、練馬・板橋・杉並区の大部分と中野・北・豊島・新宿区の一部です。新河岸処理区は、区部全体の面積の約18%にあたり、ここから発生する下水を新河岸水再生センターと共同で処理しています。

処理した水は新河岸川に放流しています。また、その一部をろ過してセンター内で機械の洗浄・冷却やトイレ用水などとして使用しています。併せて、処理水の持つ熱をセンター内の空調に活用しています。

発生した汚泥は、新河岸水再生センターへ圧送し、処理しています。

●処理区域



(令和8年4月現在)

左岸施設

- 運 転 開 始 平成13年 4 月
- 敷 地 面 積 134,225㎡
- 処 理 能 力 165,000㎡/日
- 雨水貯留池 21,000㎡

右岸施設

- 運 転 開 始 平成15年 4 月
- 敷 地 面 積 73,938㎡
- 雨水調整量 160,000㎡
(幹線10万㎡+ポンプ室6万㎡)

水処理施設

●左岸

- 沈 砂 池 1 4 池
- 第一沈殿池 4 池
- 反 応 槽 9 槽
- 第二沈殿池 6 池

●雨天時貯留池

- 北系 17,000㎡
- 南系 38,000㎡

●右岸

- 沈 砂 池 3 池

●流入・放流水質

水再生センターからの放流水は、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」の水質基準を十分に満たし、魚がすめる水質です。

単位：mg/L

項目	流入水	放流水	条例による放流水の水質基準
B O D	120	2	25以下
C O D	66	7	—
全 窒 素	25.6	7.5	20以下
全 り ん	2.6	0.1	1以下

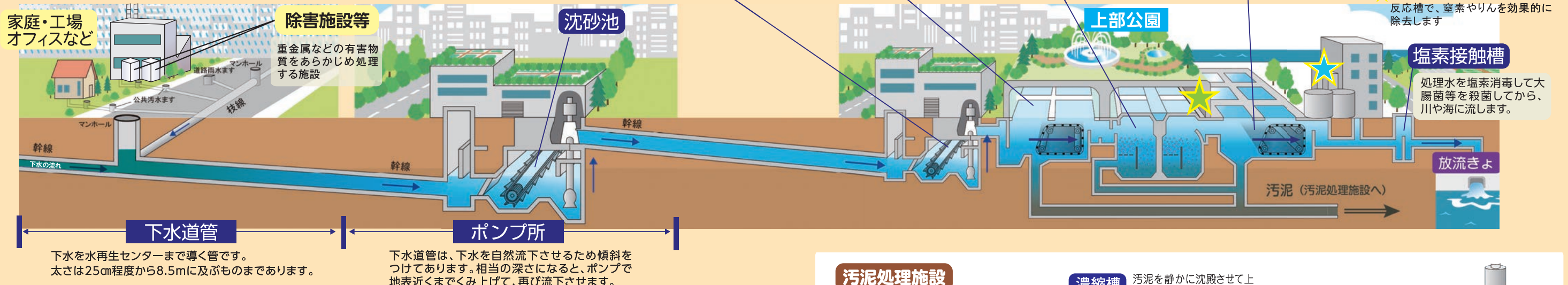
令和6年度 24時間試験平均値

※BOD、CODは、数値が高いほど水が汚れていることを示します。BODは、微生物が有機物を分解するのに使う酸素量、CODは酸化剤で有機物を分解して消費する酸素量で測ります。放流水の水質基準は、河川はBOD、海域はCODにより定められています。全窒素、全りんは、赤潮の発生などと深くかかわっています。



- ・下水を集めて流す**下水道管**
- ・下水道管が深くなりすぎないように途中で下水をくみ上げる**ポンプ所**
- ・下水を処理してきれいな水によみがえらせる**水再生センター**

どの施設も正しく働くように日々点検、清掃、補修などを行っています。



家庭や工場から排出された汚水を処理して、
快適な生活環境を確保します。

道路や宅地に降った雨水
を速やかに排除して、
浸水から街を守ります。

下水を処理し、きれいに
した水を川や海に放流す
ることにより、その水質を
改善し、保全します。

再生水や下水熱など下水道が持つ
資源・エネルギーの有効利用や下水
道施設の上部空間の利用などにより、
良好な都市環境を創出するという新
しい役割を担っています。

汚泥の水分を取り除き、
焼却しています。

※ 汚泥処理施設のない水再生センターは、汚泥処理施設のある水再生センターに汚泥を送って処理します。

The diagram illustrates the final stages of wastewater treatment. On the left, '汚泥' (Sludge) enters a '濃縮機' (Sludge Concentrator), which uses a belt system to separate water. The concentrated sludge then moves to a '脱水機' (Dehydration Machine), shown as a horizontal roller press. Finally, the dewatered sludge is fed into a '焼却炉' (Incinerator), depicted as a large vertical furnace with flames, where it is burned to ash.

濃縮機 薬品を加え凝集させた汚泥をベルトに乗せ、重力ろ過によって水分を分離します。

脱水機 濃縮汚泥を脱水機で脱水します。

焼却炉 脱水した汚泥を焼却して灰にします。

● 浮間水再生センターの特色

電力需要の低い夜間に NaS 電池に充電し、この電力を昼間に利用することで、ピーク時電力を抑制し、電力不足などへ対応します。

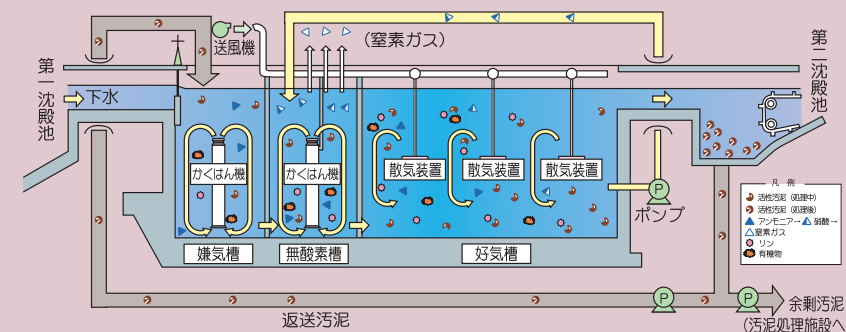
今までの下水処理では取り除きにくい窒素やりんが原因で、東京湾では依然として富栄養化による赤潮が発生しています。このため、A₂O法（嫌気－無酸素－好気法）という高度処理を行って、より多くの窒素やりんを除去しています。

地球温暖化対策として、発電時にCO₂を発生させない太陽光発電設備を設置し、センターが使用する電力の一部を補っています。

発電能力の合計は550kW、年間発電量は一般家庭の約150世帯分です。



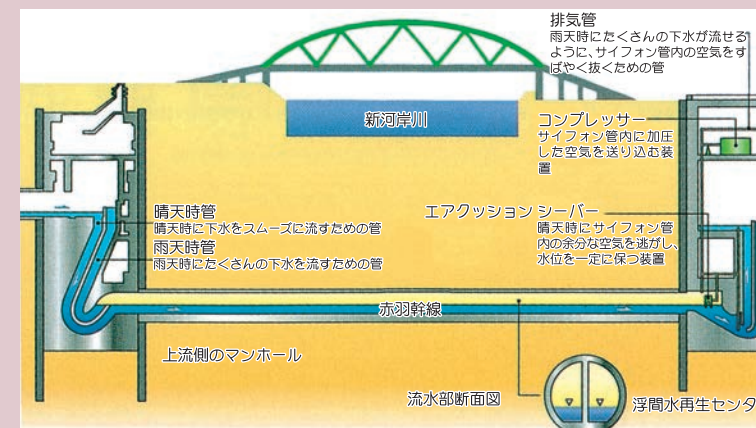
浮間水再生センターに下水を送る赤羽幹線は、新河岸川の下を通過するために、地下深くつくられました。そのため、維持管理がしやすくなるようにエアクッションサイフォンシステムを採用しました。このシステムは、晴天時には管内に空気を封入することで、下水の流れる断面を小さくして流れを速くし、下水道管内に堆積物を溜まりにくくします。雨天時には空気を抜くことで、たくさん下水を流せるようにします。



下水と活性汚泥を空気を吹き込まずに混ぜ合わせます。活性汚泥中の微生物は酸素がないので、体内に貯えたりんを水中に放出します。

好気槽から窒素と酸素が結びついた水を戻します。
微生物は窒素に付いた酸素を奪って呼吸します。
酸素を取られた窒素はガスとなって放出されます。

空気を十分に吹き込むことで、有機物は分解され、窒素は酸素と結びつきます。また、嫌気槽で放出された量以上のりんが微生物に吸収されます。



エアクッション・サイフォン管内の状況

雨天時

 空気
 下水